

事例報告

JAIRO Cloudへの紀要データ移行



JPCOAR オープンアクセスリポジトリ推進協会
2017年度第3回機関リポジトリ新任担当者研修

関西外国語大学研究支援センター 三村裕紀

このデータ、これで大丈夫？

本学紀要 > 研究論集 > 第100号	
タイトル	紀要移行データのメタデータ
タイトル(ヨミ)	キヨウ イコウ データノメタ データ
アイテムタイプ	[ELS]紀要論文
言語	日本語
雑誌書誌ID	AN00046756
著者	外大 花子
著者所属	関西外国語大学外国語学部
巻	100
開始ページ	1 - 5
発行年	2014-09

機関リポジトリの知識もないまま、紀要データを移行してしまいました。

内 容

1. 関西外国語大学について
2. NIIの研究紀要公開支援
3. JAIRO Cloudへのデータ移行
4. 研修受講者コミュニティ
5. 図書館への引継ぎ

1. 関西外国語大学について

- 沿革
 - 1945年 谷本英学院開校
 - 1953年 関西外国語短期大学開設
 - 1956年 ≪紀要『研究論集』発刊≫
 - 1966年 関西外国語大学開設
 - 1990年 ≪博士学位論文第1号≫
- 学部/大学院
 - 中宮キャンパス
英語キャリア学部・外国語学部・短期大学部・大学院
 - 学研都市キャンパス(2018年度新キャンパスに移転)
英語国際学部/国際言語学部
- 学生数 12,980名 専任教員数 318名
- 図書館蔵書数 59万冊(中宮42.5万、学研都市16.5万) (2017年5月現在)

2. NIIの研究紀要公開支援①

★本学のコンテンツ構築状況

◇学術雑誌目次速報データベース(1994-2002)

- 紀要の書誌情報データベース。大学の自主的参加により構築

★本学発行紀要の目次を入力。創刊号からすべて遡及

★2000年 本文電子化に備えて『研究論集』他1誌の投稿規程を改訂

- 電子化公開ということもあり、掲載論文の質を担保するために査読体制も一新

◇研究紀要公開支援事業(2002-2008)

- NIIによる紀要電子化事業。(本学は応募せず)

◇学術雑誌公開支援事業(2002-)

- 目次速報データベースの機能を拡張し、本文の登録が可能に。

★2003年 電子図書館システムを導入して紀要本文の公開を開始

- 『研究論集』他1誌は2000年発行分から、他2誌は発行元から本文のPDFファイル提供を受けて順次公開。他1誌は書誌のみ登録。

2. NIIの研究紀要公開支援②

◇学術雑誌公開支援事業

- 大学等が発行する研究紀要公開支援を通じて大学等の情報発信を支援

- ①本学紀要の記事データを登録して、CiNii Articlesの検索対象に
- ②「CiNii 本文収録刊行物ディレクトリ」を本学の情報発信プラットフォームに

NDL雑誌記事索引収録対象外の紀要も検索対象に。
作業もルーティン化し、少ない業務負担で紀要公開の役割を果たす。

その日までは・・・。

◇学術雑誌公開支援事業が2017年3月末に終了

- 研究紀要等は、今後は機関リポジトリでの公開を中心に据える、として

★本学データの移行先は、JAIRO Cloudに決定

コシです！

2. NIIの研究紀要公開支援③

◇データ移行の支援

移行先が機関リポジトリでJAIRO Cloudを利用の場合は、大学等研究機関に移行データを確認の上、NIIにてデータ移行を支援

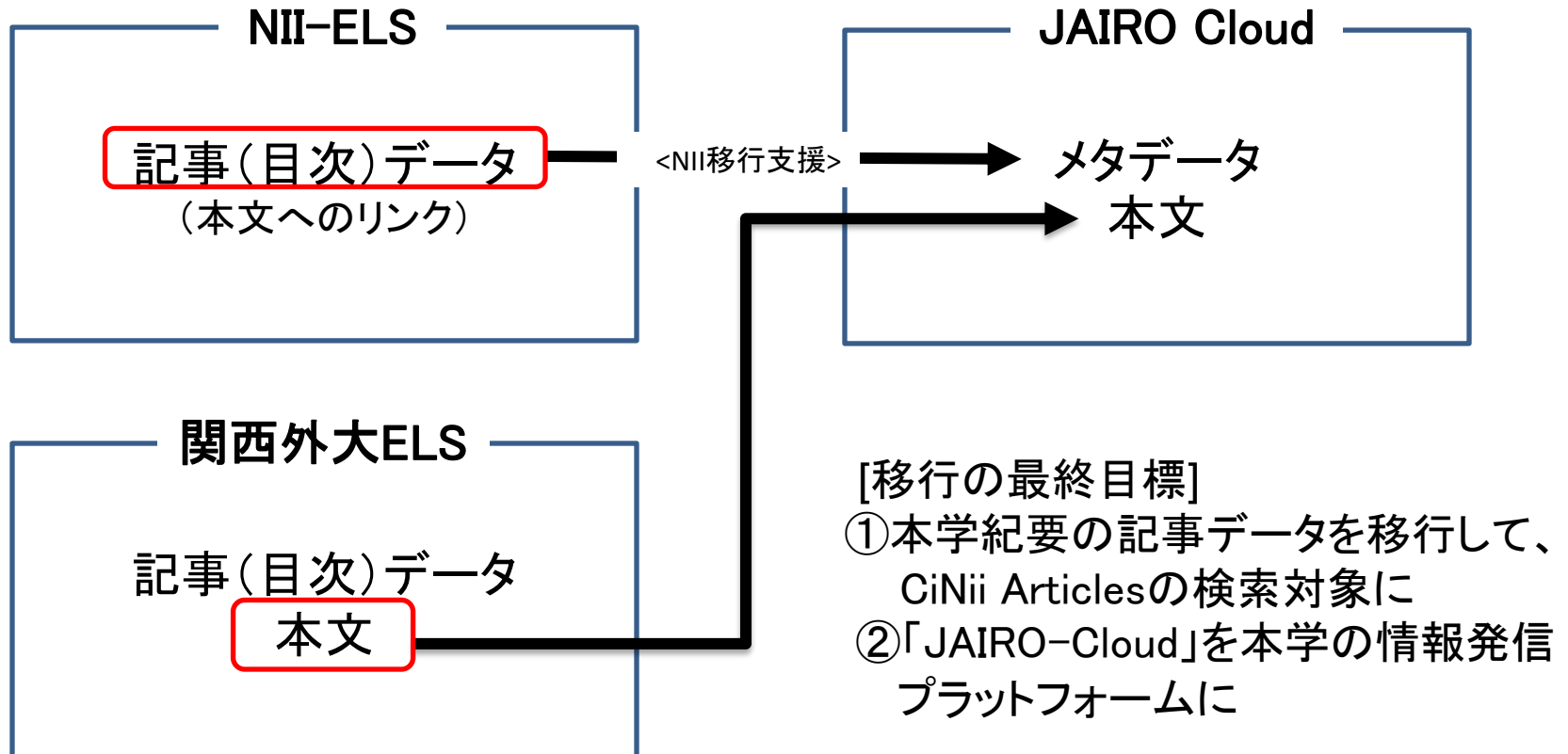
移行前の思い

ELSからJAIRO Cloud。どちらもNII
移行には問題なさそう・・・

自力ではとてもできないことなので、支援はとても助かる

移行されたらそのまま公開すればいいのかな？

3. JAIRO Cloudへのデータ移行



- J-STAGEは本学紀要の一部しか移行できないため、移行先に選定せず

紀要データの移行完了まで

- 2016年7月 移行データの内容確認および修正
 - ①アイテムタイプの選択 ②言語コードの選択 ③非公開インデックスの作成(移行を若干失敗してしまったが、NIIからマニュアルをいただき解決)

Q. NII-ELSの時は、入力の基準として「システムデータ記述手引き」があった。JAIRO Cloudでは何を基準に入力すればよいか？

A. 資料種別ごとに「アイテムタイプ」というjunii2準拠のメタデータ項目のセットをデフォルトで用意。各アイテムタイプのメタデータ項目は「junii2ガイドライン」に沿って設定。

Q. 学術コンテンツ登録システムで登録している項目にはjunii2にない項目があるが、移行はされるのか？

A. 登録されているデータはすべての項目が移行される。

- 2016年9月 移行完了

4. 研修受講者コミュニティ①

- 公開準備
 - ELSにないデータ(「雑誌名」等)はJAIRO Cloudのメタデータに追加されないことが判明(冒頭のスライド)するも、それでよいかどうか・・・
- 9月13-14日 機関リポジトリ新任担当者研修の受講
- 研修受講後のコミュニティに参加
インターネット上の掲示板で悩みや情報を共有

渡りに船！

4. 研修受講者コミュニティ②

- 研修受講後のコミュニティでの質問の数々

- ☆ELSからJAIRO Cloudへの移行

- (1) 移行直後のデータは「雑誌名」等の雑誌に関するデータが空白だったり項目自体がないものがあるが、これで公開してもよいか？
- (2) 移行後データに修正が必要な項目を確認したい
- (3) 移行後のインデックスツリーは巻号昇順⇒降順にするには？
- (4) 複数の著者があるとき著者名、著者所属の対応が取れない
- (5) メタデータのみの場合は登録してもCiNiiに収録されない？

- ☆その他

- 著者名典拠(科研費研究者番号)のインポート
- ・その他、いろいろ

4. 研修受講者コミュニティ③

いただいた回答・ご意見を参考にデータ修正

- 1) 項目の追加(junii2の必須項目・あれば必須の項目を中心に)
「出版社」「ISSN」「著者版フラグ」等
- 2) 一括登録(EXCELで値を追加・修正・削除)
値を追加:「雑誌名」「雑誌名(英)」「出版社」「ISSN」「著者版フラグ」
「POS_INDEX」「第1号」等。巻号の降順で並び替えて登録)
値を分割:開始ページ「1-5」⇒開始ページ「1」終了ページ「5」
値を削除:「URL」等(本文ファイルをローカルにもっていたため)
「論文読み(2001年以降の日本語タイトルがない記事について)」
本文ファイルを追加:「本文のURL」+PDFファイル(この機能はうれしい)
- 3) 個別修正
「言語」…中国語がすべて「その他の言語」に移行されたので「中国語」に
複数著者のセット…著者名、著者所属等の対を空白「&EMPTY&」で対応

4. 研修受講者コミュニティ④

- アイテムタイプは、[ELS]紀要論文、[ELS]その他の2つ
 - 新規にデータを追加するときは、このアイテムタイプを選択

	NII-ELS	JAIRO Cloud
入力の拠り所	システムデータ記述手引き	junii2ガイドライン
拠り所の中身	入力規則	項目説明と使用例
項目	項目はどの機関でも共通	機関のポリシーにより異なる
記述するデータ	記事(目次)データ	メタデータ
記述の特色	雑誌冊子を記事単位で記録	ハーベストを前提とした記述
データ構造の特徴	親書誌・子書誌の階層構造	フラットな構造

データ移行を通じて感じたELSとJCのデータの違い(あくまで感覚的なものです)

5. 図書館への引継ぎ①

- データを整形する(=データをきれいにする絶好の機会)
 - データを点検し項目の抜けや不統一がある場合は修正
 - 文字コード変更(JIS⇒UTF-8)により入力可能となった音標符号付き文字、中国語の遡及入力(可能な限り)
 - 特集号は、特集名を巻号インデックスのコメント欄に記録
 - 本文の収録範囲等を雑誌インデックスのコメント欄に記録
 - 引継ぎの準備
 - 引継ぎ書類(入カマニュアル、初期設定関係等)
 - バックアップデータ
- ⇒ルーティン化したうえで図書館に引継ぎ

5. 図書館への引継ぎ②

- 機関リポジトリ名称：関西外国語大学機関リポジトリ
- 引継ぎ対象：国立情報学研究所(NII)学術公開支援事業の終了に伴う
JAIRO Cloudへの本学紀要データ入力業務他
- 移行対象：NII学術雑誌公開支援事業によって公開していた紀要すべて
- 移行した記事データ数：2,440件
- 本文ファイル登録件数：565件（本文搭載率23.2%）
- 2016年10月 引継ぎ終了（残作業を除く）

データ移行の残作業

- 日常作業のマニュアル化
 - ログチェック
 - CiNii等への反映チェック
 - コンテンツのバックアップ
- 旧システムから移行した不要項目の削除
- DOI
- Creative Commonsライセンス
- ERDB-JP
- 著者名典拠の重複処理 ←著者名典拠大量増殖事件

著者名典拠大量増殖事件

概要

1名につき1つ作成されるのが本来の著者名典拠だが、著者名を入力しようとする
と、複数の典拠が呼び出された。1名につき複数の著者名典拠が作成されている
ため、多いものでは60を超える著者名典拠が表示された。

推定される原因

例えば一人の著者が1つの紀要に20の論文を書いた場合、データを一括登録す
れば1名につき20個の典拠が作成される。さらに、一括登録を上書きではなく新規
登録として3回ほど行ったために、そのたび倍々で典拠が作成されたと思われる。

解決策・・・著者名典拠は削除も付け替えもできないため、まったく打つ手なし。

朗報です！

2017年夏のJAIRO Cloudのアップデート(WEKO ver. 2.4.0)で、著者名典拠管理機能が付き、
著者名典拠の追加、編集や削除ができるようになりました。

これまでバラバラだった日本語表記・英語表記の著者名典拠も1つの典拠にまとめること
もできます。

⇒JPCOARスキーマ、ORCID等の研究者IDの動向にも目が離せませんね！

おわりに

おかげさまで、データ移行を無事終えることができました。
特に、研修受講後のコミュニティでは大変お世話になりました。
ありがとうございました。

みなさんも、コミュニティに参加して、
情報でも悩みでも、そこで共有してみませんか。

本日はご清聴ありがとうございました。